

## ソフィ ジェンキンス 英国出身、元カトリック/プロテスタント信者

:

明:

ソフィ はイスラ ムについて った知 を吹きこまれながらも、自らその真 を明らかにする 心をします。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: ソフィ ジェンキンス

日 8 Jan 2013

集日 28 Jan 2013

私は英国の下位中 の家庭に生まれました。当 、私の母は主 （在もそうです）で、父は会社で いていました（在は 子工学の を勤めています）。父はカトリック、そして母はプロテスタントの出身です。二人とも1970年代初 のクエ カ 教会に一 影 を受けましたが、二人が出会う になると、どちらも 固な 神 者となっており、我が家では宗教が 践されるどころか、 してそれに触れられることすらありませんでした。 は、私が成 して宗教を持つことに めるのなら、それに を唱えることはないと言っていました。

私は信仰について教えられてきた ではありませんでしたが、幼少の から神を信じていました。クリスチャンスク ルで教えられてきたことについても、それが正しくないことになんとか 付いていました。私はイエスの神性や などを信じず、それらはすべて 虚 に えましたが、学校ではそれこそが真 であり、他のすべての宗教は っていると教えられていたため、とても混乱していました。小さな子供は大人の言うことはすべて正しいのだと信じるものですが、私は「 ったこと」を信じていることに して罪 感を感じたため、唯一神への信仰を自分の中だけにしまっておくことにしました。私はそのことについて じ入り、やがて自分が 端者でなくなることを祈りました。若い は、「イスラ ム原理主 」への恐怖心に晒されていて、特にサルマ ン ルシュディ事件のこともあり

、人々の にはムスリムへの恐怖がいつもよぎっていたと思います。私の通っていた小学校には、二人のムスリムの少年がいましたが、彼らのうちの一人アリ が合同礼 を拒否していたこと以外は、二人とも信仰を していました。

私はいつも、正しき道を示してくれるよう、神に祈り、神の助けを乞い けていました。11 12 の になると、神の存在は疑う余地がなくなっており、高校生にもなると、私の抱いていた神への信仰は ったものではなかったと 信し始めました。この 、私はイスラムについて全く知らず、唯一「知っていた」ことといえば、女性をゴミのように う暴力的な宗教ということだけでした。私が学校で教えられていたのは、イスラ ムが によって められたもの（つまり、暴力と 制による布教がされていたということ）で、イスラムの女性は衣服によって象 される私有物で、ムスリムたちはムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）を崇 しているということでした。私はそれに非常に嫌 感を抱き、マンチェスタ で い物をしていたときにムスリムを かけたときは（私の地域にはそれなりにムスリムがいます）、「どうしてそんなことを出来るのか？」と 思っていました。私は本当に 慨していたのです。しかし、私がイスラ ムについて学校で教わった唯一の正しいことは、ムスリムが唯一神を信じていることであり、それは私がそれ以前には全然 知らなかったことでした。

私はユダヤ教、ヒンズ 教、 教などの についても べてみましたが、それらはすべて人工的で矛盾に ちたものに感じられました。しかしある日、何が私にそうさせたのかは分かりませんが、私がこれまでに学んできたことが正しかったのかどうかを したくなりました。私はムスリムが唯一神を信じるということ を いてはいましたが、それが正しいのか しようと思いました。近所の で「Elements of Islam（イスラ ムの要素）」という本をこっそり借り、ムスリム女性の 目を真っ先に くと、そこで したことに 愕しました。それは、私がイスラ ムと女性について教えられてきたことと正反 のことが かれており、その内容といえば、私がこれまでに いたことの何よりも素晴らしいものでした。私はそれが真 であると直感的に分かったため、それを疑いもしませんでしたし、私の祈りが答えられたのだと分かりました。イスラ ムこそが、私が今までずっと探し求めてきたものだったのです。しかしこのように感じる

ことにして、小学生代から教えられてきたが、罪感を感じ出しました。なぜこのような「った」宗教を信じることなど出来るのか、というものです。私はイスラムが真ではないというを探しましたが、それは不可能でした。イスラムにして否定的なことがかかれてある本は、すべて嘘だということが分かったのです。そしてイスラムにして肯定的なことがかかれてある本は、すべて真をっていました。

私は自分がムスリムになるべきだと意したものの、それを受け入れることが出来ず、そのことをにも告げませんでした。私は入手可能な全ての本をみ、からクルアンの英も借りましたが、それは中世の英だったため理解出来ずにいました。そのことが私を挫けさせなかったのは、それはただの翻本であり、理解できた部分はとてもに入ったからです。私はイスラムが一生かけて取得するものであること、そして一旦足を踏み入れればりは出来ないことを知っていたので、完全に信を得る必要がありました。局、私は1997年の1月に、とあるチャットルムに偶然入り、私の人生をえる出来事が起こるまでの2年半、独学をけました。その（ムスリムがする）チャットルムでは色々な助けを借り、2度目に入ったとき、世界中の人々が立ち会う中、シャハダ（イスラム信仰を受け入れるに行う信仰宣言）を行ったのです。

この事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/123>

著作 2006-2015 断を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断を禁じます。